

幼児・初等教育における ICTを活用したキャリア教育の成果と課題

渡邊 景子^{1,a)} 杉本 正和^{2,3} 角田 雅仁⁴

概要：鹿児島県鹿屋市のつるみね保育園では「9割のアナログ保育と1割のデジタル保育」を掲げ、園に1台のiPadを活用して、園児がプレゼンを行ったり、テレビ電話でネイティブスピーカーによる英会話レッスンをしたり、数多くの実践がある。同園のカリキュラムには、保育指針等の5領域に則った「11の未来力」が示されており、それらを身に着けさせることが、園児たちの将来に役立つものとして捉えられている。また、福島県棚倉町では、町立幼稚園-小学校-中学校での幼小中一貫教育において、間接的キャリア教育に力を入れている。今後タブレット端末を導入することが計画されており、これまでの活動にICT活用が加わることで、さらなる成果が期待される。以上のことを踏まえ、幼児教育及び初等教育におけるキャリア教育、及びキャリア教育におけるICT活用の成果と、現段階での課題について言及する。

Results and Problems of Career Education with ICT Utilizing in Early Childhood Education and Elementary Education

KEIKO WATANABE^{1,a)} MASAKAZU SUGIMOTO^{2,3} MASAHIKO KAKUTA⁴

1. はじめに

キャリア教育という言葉から連想されるものは、「職業教育」や「進路指導」という言葉が一般的であり、その内容は、上級学校や社会に出るまでの道筋を示すものと思われがちである。しかし、2011年の中央教育審議会答申によれば、キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である [1], [2]。

その基本的方向性は、以下の通りであるとされている。

- (1) 幼児期の教育から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めること、
- (2) その中心として「基礎的・汎用的能力」を確実に育成するとともに、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実すること

iPadとプロジェクタを活用したデジタル保育を実施している鹿児島県鹿屋市のつるみね保育園の実践は、「基礎的・汎用的能力」を培う活動と捉えることができるのではないかと。プレゼンタイムと名付けられたわずか数分の発表の時間に、その日担当となった園児は、保護者が送ってくれた自分や自分の身の回りの写真を見せながら、大きな声ではっきりと写っている物の紹介を行う。また、それを見ている他の園児達は、発表している園児から質問を促されると、一斉に挙手して思い思いの質問を投げかける。この活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」といった基礎的・汎用的能力が培われると考えられる。さらにその根幹にICT活用もしっかりと根づいている。

福島県棚倉町でのキャリア教育の取り組みにも目を見張る物がある。2013年より、町内の公立幼稚園・小学校・中学校において、特に幼稚園から小学校、小学校から中学校への連携を強化した、「基礎的・汎用的能力」の育成を中心に据えた「間接的キャリア教育（資質・能力の育成）」を重点的に実施している。

¹ 東京女子体育大学大学 (Tokyo Women's College of Physical Education)

² つるみね保育園 (Tsurumine Nursery School)

³ 鹿児島国際大学 (The International University of Kagoshima)

⁴ 棚倉町教育委員会 (Tanagura Education Board)

a) keiko@iisa.jp

本稿では、これら2つの事例から、職業教育中心の「直接的キャリア教育」よりも、「間接的なキャリア教育」において、効果的にICTを活用することの成果と課題について言及したい。2.では、キャリア教育という言葉が使われるようになってから現在に至るまでの変遷と、現在キャリア教育の中心として考えられている基礎的・汎用的能力を紹介し、3.では、つるみね保育園で行われているデジタルとアナログのハイブリッド保育の実践を、4.では、棚倉町の幼稚園・小学校で行われているキャリア教育の実践を紹介する。5.では、それらの実践の考察を行い、今後の展望と課題を述べ、まとめとする。

2. キャリア教育

2.1 キャリア教育の変遷

文部科学省他の「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」（2011年3月）[2]によると、「キャリア教育」が文言として初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（1999年12月）[3]であった。ここではキャリア教育を「自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」としている。この時期にキャリア教育は、若年者の雇用・就業問題解消策の一環として位置づけられたこともあり、「フリーター対策」として誤解される傾向が生じた。

1992年11月に「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」に基づく能力論（いわゆる「4領域8能力」）は、急速に学校に浸透していった。

さらに1996年度の「キャリア・スタート・ウィーク」事業[4]（中学校に5日間連続の職場体験活動を推進）により全国キャンペーンが展開され、2008年度までの4年間合計で11億円を超える予算が充てられた。しかしこの大規模予算によるキャンペーンの結果、職場体験をさせることがキャリア教育であるとの誤解が生じた。

また、前述の報告書等でも、いわゆる「4領域8能力」は、高等学校段階までの提示にとどまっており、学校・学科の特色や生徒の実態を十分に踏まえないまま、キャリア教育を固定的に運用する学校が少なくないなど、様々な課題が生じた。

2011年1月、中央教育審議会は答申[1]の中で、今後のキャリア教育の基本的方向性として次の2点を挙げている。

- 幼児期の教育から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めること。その中心として、基礎的・汎用的能力を確実に育成するとともに、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実すること。
- 学校は、生涯にわたり社会人・職業人としてのキャリア形成を支援していく機能の充実を図ること。

以上のように従来の「4領域8能力」は「基礎的・汎用的能力」へと転換されていくことになる。（図1）

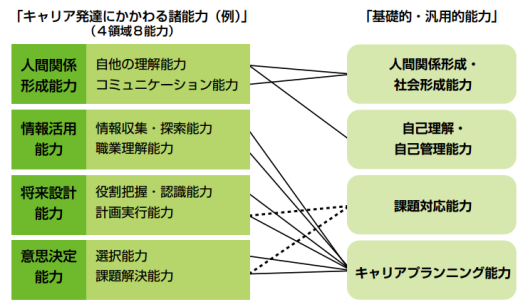


図1 「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」へ
（出典:小学校キャリア教育の手引<改訂版> [5]）

2.2 基礎的・汎用的能力

前述の2011年1月の中央教育審議会の答申[1]では、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力は基礎的・汎用的能力だけではないと述べられており、次の5つを挙げている。

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能
- (2) 基礎的・汎用的能力
- (3) 論理的思考力，創造力
- (4) 意欲・態度及び価値観
- (5) 専門的な知識・技能

特に、「(2) 基礎的・汎用的能力」について、次の4つに整理している。

- (ア) 人間関係形成・社会形成能力：多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。
- (イ) 自己理解・自己管理能力：自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。
- (ウ) 課題対応能力：仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。
- (エ) キャリアプランニング能力：「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

先述の、つるみね保育園における園児らのプレゼンタイムでの行動を、基礎的・汎用的能力の4つの能力の観点から考えると、次のことが言える。

- 「その日担当となった園児」は、発表日が決められてい

るわけではないが、保護者が画像を送った時点で、いつか近い将来発表するということを認識している。そこで、この園児は家庭で保護者とともに写真を選びながら、発表の準備をしてこの場に臨んでいるといえる。このことにより、(ウ)の課題対応能力が培われる。

- 「保護者が送ってくれた自分や自分の身の回りの写真を見せながら、大きな声ではっきりと写っている物の紹介を行う。」ことにより、(イ)の自己理解・自己管理能力が培われる。
 - 「それをみている他の園児達」は、発表した園児への質問をすることで、(ア)の人間関係形成・社会関係形成能力が培われるといえる。
- 一方、棚倉町教育委員会の「棚倉町キャリア教育推進プラン」[6]では「基礎的・汎用的能力」の育成を次のように位置付けている。
- 人間関係形成・社会関係形成能力：「言葉でかかわる力」
 - 相手や集団を意識した行動
 - コミュニケーション能力
 - 自己理解・自己管理能力：「自分を知り見つめる力」
 - 振り返る力
 - 自分の良さや可能性の認識と活動意欲
 - 課題対応能力：「考えてやり遂げる力」
 - 課題や問題を様々な方法を使って解決する力
 - 既習事項を基に考える、調べる、聴く、話し合う力
 - キャリアプランニング能力：「見通す力」
 - 見通しを持った行動
 - 夢や目標への将来設計

園児・児童・生徒に以上のような能力を身につけさせるために、棚倉町の教員は、「児童生徒に今の学びが将来の社会的自立に役立つことを理解させる」ことを念頭に置き、日々の教育活動に取り組んでいる。そして、そのような活動、すなわち「キャリア教育の視点をもった教育活動」をすることで、教師の指導力向上も目指している。

3. つるみね保育園におけるハイブリッド保育

3.1 つるみね保育園での「未来力」

鹿児島県鹿屋市のつるみね保育園 [7] は、社会福祉法人上名福祉会が運営する保育所型認定こども園である。通っている園児の数は0歳児から5歳児まで総勢64名(表1)、保育士、給食指導員、送迎バス運転手等合わせて18名の職員により保育活動を行っている。

表1 園児のクラス(年齢)別人数

クラス(歳児)	人数(人)
0	4
1	8
2	13
3	14
4	12
5	13

筆者の一人である杉本が園長に就任した直後にカリキュラム改革を行い、保育指針や幼稚園教育要領の5領域を基に、11の未来力を掲げ、日々の保育を、計画的にバランスよく実践している。ここで、11の未来力と5領域の関係



図2 つるみね保育園の「未来創造カリキュラム」

は、つるみね保育園の「未来創造カリキュラム」図 2 に示す通りである。

また、杉本の考案で、2012年よりタブレット端末（iPad）1台を活用した保育を行っている。導入当時は保育園にたった1台しかないタブレットをみんなが見えるようにプロジェクタに接続した。使ったデジタルタイムを週1回15分だけ実施している。デジタルタイムに参加する園児は、毎回5～6名。実際の積み木やパズルなどで遊ぶのと同様に、1台しかないiPad上のパズルやクイズで順番に遊ぶ。一人の子が遊ぶようすを、他の園児たちは、iPadの画像が映し出されたスクリーンを見て応援する。また、毎回誰か一人がプレゼンタイムの発表を行う。

つるみね保育園の未来創造カリキュラムには、「11の未来力」が示されている。これらの「未来力」とは、心理学者ガードナーが、著書[9]で示した多重知能理論を参照して設定した、つるみね保育園で身に付けさせたい11の能力の総称である。

そして、この「未来力」という言葉は、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の一つである「キャリアプランニング能力」に通じるものとする。これは、「自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力」であり、今の活動が将来役に立つと信じる保育者の願いでもある。

3.2 9割のアナログと1割のデジタル

「デジタル保育」とは、著者の一人である杉本が園長と勤めるつるみね保育園の造語であり、同保育園によって商標登録されている。

つるみね保育園のWebサイト[8]には以下の記述がある。

汗を流し、泥にまみれ、人とふれあう伝統的体験的な「9割のアナログ保育（つるみね保育園の造語）」と、デジタル技術を活用した先進的科学的な「1割のデジタル保育（つるみね保育園の造語・商標登録）」の実践を始めて3年。確実に研究が進み、深まっています。保育指針や幼稚園教育要領の5領域を基に、11の未来力を掲げ、激変が予想される未来を、たくましく生き抜くための日々の保育を計画的にバランスよく実践しています。

アナログ保育の例を挙げれば、広い人工芝の園庭に築山人工スキー場、ペダル無し二輪車ストライダー（足で地面を蹴って進む子供用二輪車）用のサーキットコースなど、枚挙にいとまがない。また、身の回りの不思議や驚きを解明する科学タイム、楽器の演奏に合わせて歌ったり踊ったり音楽タイムなどを、ICT機器を使わずに実施していることもアナログ保育と言えるだろう。

一方、1割のデジタル保育は、さらに次の5つに分類することができる[10]。

- (1) グローバルな感覚を磨く
- (2) 知識を深める
- (3) 表現力・発表力を高める
- (4) 道徳心や社会力を高める
- (5) 先進性・創造性を楽しむ

3.3 ではこの中の(1)に着目し、オンライン英会話の実践やテレビ電話による国内外との交流を紹介する。また、3.4 では、(3)に着目し、プレゼンタイムを紹介する。

3.3 グローバルな感覚を磨く実践

3.3.1 オンライン英会話

毎週2回、20分間、4才児と5才児の25名が参加。1回のレッスンでバイリンガル講師に直接レッスンを受けるのは5～7名で、その他の園児は後ろで見学する。この5～7名は毎回交代している。その様子を図3に示す。

この取組では、オンライン英会話のシステムを提供する企業と連携し、毎回レッスン後に意見交換を行ったことによって、子ども達の発達段階に応じたオンライン英会話の教材を創り上げた。



図3 オンライン英会話の様子

3.3.2 テレビ電話による国内外との交流

デジタル保育の実践を始めてから、アメリカ、カナダ、オーストラリア、韓国、中国、

シンガポール、ロシアなど12カ国の人々と40回以上もテレビ電話による交流を重ねている。近隣の学校にALT（外国語指導助手）として勤めている外国人や知り合いの外国人に紹介を依頼すると、みな快く仲介を引き受けてくれるため、テレビ電話による海外との交流が円滑に行うことができる。

子ども達は交流相手の顔の違いだけでなく背景の看板に映る外国の文字にも興味関心を抱いており、好奇心・探究心が育まれていることがわかる。このような貴重な体験は、ICTの恩恵なくしては実現できない、まさにアナログ保育だけでは得ることのできない、デジタル保育ならではの体験と考えられる。

最近の1年は、オンライン英会話を実施していることに

より、海外の方々との会話を楽しむことが出来るようになっていく。英語を話す園児たちに対して外国人が大きなリアクションで賞賛してくれることが、園児たちの確かな自信につながっている。

カリキュラムが用意されている英会話と異なり、テレビ電話による交流は想定外の展開となることで、園児たちの対応能力が鍛えられる。

3.4 表現力・発表力を高める

保護者から届いた写真を使って発表や質疑応答を楽しむ時間で、プレゼンタイムと名付けられている。なお、プレゼンタイムについては、キャリア教育の視点から 2.2 に詳述している。園児の発表と質疑の様子を図 4 に示す。



図 4 プレゼンタイムの様子

4. 棚倉町におけるキャリア教育

4.1 棚倉町におけるキャリア教育改革の背景

棚倉町立高野小学校・高野幼稚園は、幼稚園と小学校が併設されている環境を生かして、幼小一貫教育を積極的に推進し、つなぐ教育とキャリア教育を基盤とした学校改革を進めている。

まず、2013 年度からキャリア教育を推進する方略として、次の項目を定めた。

- (1) 教師の意識改革
- (2) 児童の意識改革
- (3) 地域・保護者の意識改革

これらの目標を掲げ、組織的・計画的に学校・地域・家庭を巻き込み、キャリア教育を基盤とした学校経営を推進してきた。

幼稚園から小学校までの 8 ヶ年の学校教育全体を、キャリア教育の視点で見直し、基礎的・汎用的能力の育成を学校経営の視点から組織的に取り組んできた。その結果、学力テストの数値（平均点）が向上したところに大きな特徴が見られる。

キャリア教育の現状を見ると、体験を重視するあまり、職業体験や体験活動がキャリア教育であるようにとらえら

れているところがある。また、小学校や幼稚園でのキャリア教育のとらえ方に誤解があり、職業教育・職場体験に関連した行事や指導内容に特化した「直接的なキャリア教育」ばかり行ってしまう傾向がある。

高野小学校・高野幼稚園の実践は、キャリア教育の目標である、「学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、学ぶ意欲を向上させること」、「将来の社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育てること」を重視し、児童・園児の自主性を育みながら「間接的キャリア教育」の視点から資質・能力を高めることを目指している。日々の授業・保育における指導方法の工夫により教師の授業を改善し、基礎的・汎用的能力の育成を図り、結果的に確かな学力が身につけてきている。

4.2 教育改革と保護者・地域

また、学校からの働きかけにより、保護者や地域の意識が変わり、家庭・地域によるキャリア教育へと広がりを見せている。

4.2.1 地域への効果

- 「自主性の育成」を重視し、児童が進んで学ぶ長期休業中の「たかのオープンスクール」では、「未来マネジメントサイクル」による自学学習法が推進されている。また、子ども達の主体性・創造力を育む「かしこく楽しい学級づくりプロジェクト」の実践も行われている。そして、町内の他の学校でも、「たかのに続け」と、これらの取り組みが始められている。
- 基礎的・汎用的能力を視点とした授業案の開発、及び授業改善のためのワークショップ型研修は、町内の学校で同様に実施され、町内の教師の意識改革とキャリア教育普及啓発ムーブメントの一翼を担っている。
- 幼稚園で実践してきた「学びの基礎力」と「学びの連続性」、「意欲の連続性」を重視した取り組みが、小学校の学びにつながり、棚倉町のキャリア教育を基盤とした幼小一貫教育の推進に貢献している。
- これら、キャリア教育に先導的に取り組んでいる実績が各方面から注目されており、2015 年 5 月には文部科学省による視察訪問が行われ、先進的な取り組みとして評価を受けた。

4.2.2 子ども達の変容

- キャリア能力の向上とともに、CRT 学力テスト、全国学力・学習状況調査等の結果も向上した。
- 子ども達が長期休業中に取り組んでいる「たかのオープンスクール」は、休み中の課題や、自分が苦手と感じている学習について先生に質問するなど自主的な学習を支援する活動で、自由参加であるにもかかわらず、自ら主体的に学ぶ雰囲気が高まり、在籍児童の 98% 以上が参加している。
- 「かしこく楽しい学級づくりプロジェクト」の実践は、

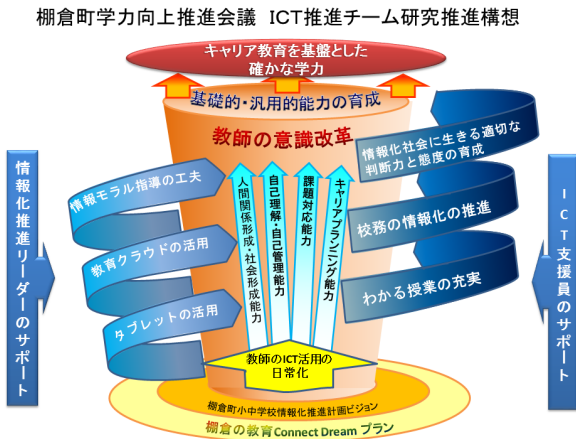


図 5 棚倉町教育委員会研究推進構想

子ども達が学級のプロジェクトを企画・立案・運営し、キャリア能力を活かした活動を展開し、子ども達の主体性・創造力を育んだ。

- 幼稚園で「学びの基礎力」と「学びの連続性」、「意欲の連続性」を重視し、資質・能力の向上に取り組んできたことで、幼稚園児の「聞く力」、「主体的に決定する力」が向上したと、日々の生活を見守っている教員たちが手ごたえを感じている。
- 地域の保護者とともに活動した「高野ショッピングモール」の実践では、子供たちが物産展で何を売るかを考え、製作・販売まで行う活動を、保護者が見守るという子ども達の自主性を親が育むキャリア教育のモデルとなった。

5. 考察および今後の展望と課題

本稿では、ここまでに、つるみね保育園におけるデジタル保育とキャリア教育との関連性、および、福島県棚倉町での幼小中一貫のキャリア教育の取り組みが成果を上げつつあることを述べてきた。

つるみね保育園のデジタル保育の実践には、1台のiPadとプロジェクトによる教材提示の形が自然に埋め込まれている。これはICT活用の理想的な形である。

また、これまで、意識していなかったが、棚倉町のキャリア教育の取り組みと並べてみることで、つるみね保育園の実践をキャリア教育として捉えることができた。

棚倉町の研究推進構想を図5に示す。棚倉町は、間接的キャリア教育を推進し、学力テストの成績向上などの躍進を遂げている。これまでアナログ的な活動中心だったキャリア教育に、今年度は30台のタブレットを投入し、クラウド環境などを柔軟に取り入れながら、ICT活用を交えた活動へとシフトしていくことを目指している。この準備のために、教員へのICT活用研修なども積極的に行っており、今後の展開が期待される。

つるみね保育園も棚倉町も、どちらも過疎地域であると

いう共通部分があるが、それぞれの気候や地形・文化による地域性や、かかわっている教育関係者の個性・人間性などを、相互に照らし合わせながら、協力しあうことで、さらに革新的な活動ができるのではないかと、筆者らがその橋渡しを担えば、と考えている。

謝辞

本稿の執筆にあたり、研究テーマについて議論を重ねて下さった、放送大学辰己丈夫先生、電気通信大学久野靖先生、久野ゼミ・関係者の皆様に感謝致します。

参考文献

- [1] 文部科学省中央教育審議会、今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(2011), http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm (2017.6.5 閲覧)
- [2] 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター、キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書(2011), https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/22career_shiryuu/pdf/career_hattatsu_all.pdf (2017.5.24 閲覧)
- [3] 中央教育審議会、初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)(1999), http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/1309737.htm (2017.5.24 閲覧)
- [4] 文部科学省、キャリア・スタート・ウィーク・キャンペーン実施要綱(2006), http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/019/001.htm (2017.5.24 閲覧)
- [5] 文部科学省、小学校キャリア教育の手引<改訂版>, (2010), http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/24career_shiryoushu/1-6.pdf (2017.5.24 閲覧)
- [6] 棚倉町教育委員会、棚倉町教育ポータルサイト(2017), <http://www.tanagura.gr.fks.ed.jp/> (2017.05.24 閲覧)
- [7] つるみね保育園、つるみね保育園(2011), <http://tsurumine-hoikuen.com/> (2017.05.24 閲覧)
- [8] つるみね保育園、つるみね保育園カリキュラム(2011), <http://tsurumine-hoikuen.com/curriculum/> (2017.05.24 閲覧)
- [9] ハワード・ガードナー：MI：個性を生かす多重知能の理論, 新曜社(2001)
- [10] 杉本正和：つるみねの15分デジタル保育, 新幼児と保育4/5月号, 小学館.(2017)